

## 第9回北東アジア地区地方議会議長フォーラム 報告書

- 日 程 : 平成30年8月1日(水)～4日(土)
- 8月1日(水) 新潟駅～成田空港～チンギスハーン国際空港～ホテル
- 8月2日(木) 議長フォーラム(会議・視察)
- 8月3日(金) 企業視察(産業技術協会、ソウルジガーデンセンター、GOBI社)
- 8月4日(土) チンギスハーン国際空港～成田空港～新潟空港
- 会 場 : モンゴル国 トゥブ県 レッドロックホテル(テレルジ国立公園内)
- 参 加 : 5か国・10地方議会
- (日本) 秋田県議会、泉佐野市議会、新潟市議会
- (中国) 吉林省人民代表大会、延辺朝鮮族自治州人民代表大会
- (韓国) 忠清南道議会、江原道議会
- (ロシア) 沿海地方議会、ハバロフスク地方議会
- (モンゴル) トゥブ県議会
- 新潟市議会代表团 団長 永井 武弘 議長(新市民クラブ)
- 団員 小野清一郎 議員(保守市民クラブ)
- 渡辺 仁 議員(新市民クラブ)
- 佐藤 誠 議員(新潟市公明党)

### ■フォーラムの目的

共に発展することを目指し、北東アジアの地方議会議長によるフォーラムの開催を通して様々な分野における広範な研究討論や交流協力を深めることにより、北東アジア地区の繁栄と発展を促進する。

### ■フォーラムの経緯

2009年に、中国延辺朝鮮族自治州人民代表大会常務委員会の発案により、「環日本海(東海)地区地方議会議長フォーラム」として、第1回が中国・延吉市において開催された。

第1回フォーラムでは、中国、韓国、ロシア、日本から6地区の議会が参加し、各議会からの意見発表とともに、交流の仕組みを確立し、フォーラムを持ち回りで開催すること、フォーラムで提示された課題の実行に努めることなどを主旨とした覚書を確認した。

第2回は、名称を「北東アジア地区地方議会議長フォーラム」と変更し、新潟市で開催した。以降はこの名称で開催されている。

新潟市議会は、第1回フォーラムから全て参加しており、日本の玄関口として、各国地方議会と交流を行っている。

■ 8月1日（水） （1日目）

移動日（新潟駅～成田空港～チンギスハーン国際空港～レッドロックホテル）

■ 8月2日（木） （2日目）

1 第9回北東アジア地区地方議会議長フォーラム（8:30～13:30）

会場 レッドロックホテル

○テーマ

「文化遺産の保護及び宣伝における北東アジア地区地方議会の義務、参加と協力」

○プログラム

(1) 開会挨拶 エンフバト トゥブ県議会議長

(2) 歓迎挨拶 エンフボルト 国家大会議議長代表（代読）

(3) 歓迎挨拶 ツォグゾルマー 教育文化科学スポーツ大臣

(4) 議長スピーチ

①秋田県 ②忠清南道 ③江原道 ④吉林省 ⑤ハバロフスク地方 ⑥沿海地方

⑦新潟市 ⑧泉佐野市 ⑨延辺朝鮮自治州 ⑩トゥブ県



(5) 報告 ユネスコ モンゴル国内委員会

(6) ブレイクタイム（ロビーにてモンゴル伝統的生活様式展示）

(7) 覚書署名

(8) 記念撮影



各国の各議会からの報告は、どれも興味深いものだった。新潟市も永井議長から、2009年の第1回のフォーラム開催以来、すべてに参加してきたことを述べ、今回は北東アジア各国それぞれの素晴らしい文化遺産に関する認識を相互に深めたいとした。また明年に開港150周年を迎える湊町の歴史を紹介するとともに、これに関連して「北前船」や「火焰型土器」にも触れた。現在最も力を入れているものとしての食文化創造の取り組み、「ガストロノミー・ツーリズム」や日本酒とともに、特に「くろさき茶豆」も紹介。

最後に、伝統芸能の一つである「古町芸妓」にも触れながら、全国各地の多様な文化の背景や価値観を尊重し、協力関係を構築することで、貴重な財産を未来へ守り伝え、文化の発展に寄与したいとした。



北東アジア地区地方議会  
議長フォーラムロゴ

## 2 視察 (15:00～18:00)

### (1) チンギスハーン騎馬像複合施設 (エンデネ村)

フォーラム参加者で視察した「チンギスハーン騎馬像」は非常に大きなもので、5階建てのビルにも相当するとのことであり、その大きさはまさにモンゴル人のチンギスハーンへの畏敬の念の大きさを表しているとも感じた。



(2) ミニ・ナーダム祭 (祭会場)

- ①長唄・馬頭琴演奏 ②チベット仏教由来の踊り ③モンゴル相撲 ④弓矢  
⑤子ども競馬

「ミニ・ナーダム祭」では、初めて直接見たモンゴル相撲は迫力があり我が国の相撲にも通じる精神性も垣間見られたように思う。

また、モンゴル人は3歳ぐらいから乗馬・競馬をすることによって、子どもたちによる競馬の迫力もすごいものがあった。

祭りの最中に供された大きな缶で肉や野菜を蒸した民族料理「ホルボグ」も独特であり遊牧民族であると実感するものでもあった。



■フォーラム所見

モンゴル国での初の開催だったこともあり、トゥブ県はもちろんモンゴル国あげての大歓迎を感じるものだった。

特に、会場のレッドロックホテルはテレルジ国立公園の中にあり、モンゴル特有の壮大な景観は印象深かった。

全体として、モンゴルの人々の日本への親近感を随所で大いに感じるものだった。今後さらに各国各地方議会同志による友好交流は非常に重要であり、今後も、北東アジア地区地方議会議長フォーラムはもちろん、さらなる多方面での交流促進の必要性と可能性を実感するものとなった。

視察した二か所からは、モンゴルの伝統文化や民族意識について直に学ぶ機会となり、大変勉強になった。それぞれの国や地域における文化そのものをまさに見せつけられたと思うものであった。



■ 8月3日（金） （3日目）

モンゴル企業訪問

1 A I T Eモンゴル産業技術協会（役員会員との懇談）

面会者 代表 ヴァヤンジャヴ・ツォゴバドラフさん

事務局長 サンジミヤタヴ・マンダスフレンさん 他2名

モンゴル産業技術協会は、新潟との技術交流におけるカウンターパートを担いながら、企業の種類にかかわらず、現場での活動を支援することにより、モンゴル産業界の技術開発の貢献により、産業界の次の方向性を担う人々、団体、企業を支援することを目的として活動を行っている団体。

これらの目的のため、製品品質改善のための高度な技術支援や、技術開発や研究課題解決のための計画的支援、製品開発に対する悩み相談など、政府が行う支援策の紹介や相談、輸出のための情報提供や組織化の相談支援を行っている。またこれらの活動ができるようセミナーの開催や、会議場での訓練を組織として行っている。

モンゴルと日本のビジネスミーティングも行ってもおり、2015年には新潟の朱鷺メッセにて、モンゴルフェア展開催を行っている。

代表からは、様々な技術を持つ新潟の企業と今後の交流推進についての話があり、意見交換を行った。



2 ソヨルジガーデンセンター（店舗見学）

面会者 社長 D・ダヴァスレンさん

ソヨルジガーデンセンターは、家庭菜園のための鉢、プランター、じょうろ、ビニールハウスなど、花の苗や、種、肥料等を販売する会社で、新潟でいえば、サイタメやコメリのようなガーデニング用品販売店である。

社長からは、モンゴルは郊外に出ればまだ自然があるが、都市化が進むにつれて、このように家庭菜園や街の中の緑化が大事になっていくだろうと思い、25年前に会社を興したとの話があった。当初はまだこのような業種の会社はなかったが、現在ウランバートルに4件の同業種の店舗があるとのこと。上記のようなガーデニング用品や花苗等の販売に当たり、新潟クボタ関連会社である新潟農商、秋葉区にある株式会社

日園との連携により、新潟農商との間では新潟からコメを輸入し、モンゴルで精米を行って販売を行っており、株式会社日園の間では、花卉花木を輸入し、販売を行っている。輸入を行う上の問題点として、エア便で輸入しなければならないが、成田からの便が1便しかなく送料が高いことや、切り花や、鉢植えは検疫を通るが、ピートモスは人口土でないと通らないとのこともあり移植が難しいとのことである。

この会社の今後の展望は、モンゴルの砂漠化が進むことから、緑化活動に力を入れていくことや、近隣ロシアや中国に鉢植えや切り花を輸出したいとのことである。



### 3 GOBI社（カシミア工場見学）

面会者 調達マネージャー ウールツオルモン・バヤルサイハンさん

GOBI社は、1972年に日本のODA援助により計画があげられ、1981年に建設され、この間モンゴルの技術者の育成・指導、工場の設備稼働まで全てが日本の援助により建設されたモンゴル初のカシミア工場である。

現在でも日本の最先端の紡績機械を使用して、カシミア原毛の仕入れ、第1次加工から糸やニット加工やフェルト加工、手織りなど、あらゆる製造工程を網羅し、販売までを行っている、世界でも珍しい紡績会社とのことだ。またGOBI社は、事前に希望予約をしておけば工場見学も出来るということだが、工場見学はもとより、敷地内には自社で作られたカシミア製品（セーター、ワンピース、マフラー、帽子、手袋など）が売られている販売店、アウトレットショップもある。

実際の市場構成としては、海外市場向けが半分、国内向けが半分とのこと、モンゴルでも屈指の大きな会社とのことである。



■ 8月4日（土）（4日目）

移動日（チンギスハーン国際空港～成田空港～新潟空港）

## ■企業訪問所見

今から 23 年前、学校施設にバスケットゴールの建設、青年経済人との交流を目的に、モンゴルを訪れたことがある。その頃は、排気ガスを撒きながら走る日本の中古車が走り、郊外の草原には遊牧民達が住むゲルが立つ姿を目にした記憶がある。

現在では、日本の中・高級車が走り、郊外においてもゲルから、多くの住宅やマンションが立ち並ぶ姿を目にすることが出来、生活レベルの向上が目で見取れた。

時同じくしてこの国には、1990 年～2016 年の間に、112 か国の 1 万 3,000 もの企業から総額 150 億米ドルもの投資がなされ、その 7 割から 8 割が鉱業分野への投資である。しかしながら、大きな投資の割に成果が目に見えなかったのは、技術や原理原則を備えた環境作りが出来ていなかったことが原因といわれている。

モンゴルからの主な輸出製品は、鉱産物、ニット製品、宝石、貴金属、牧畜産品など 62 億 66 万ドル（前年比+26.1%）と、主な輸入品目は、燃料、自動車、機械設備、電気製品、工業製品、食品など 3 億 3,456 万ドル（前年比+29.1%）となっており、収支は 18 億 6,520 万ドルの黒字である。

上記のような過去の反省や、対外貿易収支が黒字をもっと濃厚にしていくために、モンゴル政府は投資家及び事業者を支援するための政策や法的環境の整備を始めた。これらの環境整備が整っていく中で、鉱業分野に限らず、農業や牧畜、自然環境、軽工業など、投資チャンスが多くあるともいわれている。モンゴルは親日家ともいわれており、モンゴルの若者が自分のやりたい仕事を日本に来て学び、経験を積んでモンゴルに帰って、自分で起業する人が増えているという。

視察、懇談させていただいた AITE モンゴル産業技術協会、ソヨルジガーデンセンターは、すでに新潟県や新潟企業との交流を持っており、今後さらに交流を深めた中で、お互いに良いビジネスチャンスが訪れることを期待したい。

また GOBI 社においても、モンゴル産のカシミアは世界需要の約 3 割を占めるが、この製品を世界市場に出す空間はまだ残っているといわれ、日本最先端の紡績機械が使われていることから更なる発展を期待し、日本の消費者に安い商品を届けてもらいたい。

## ■結び

今回のフォーラムでは、北東アジアの各参加地方の発展を目的として、特色ある文化遺産の保護や宣伝に理解を深め、さらに様々な分野で相互協力することを確認した。

また、次回（2019 年）はロシア連邦沿海地方で開催されることも、併せて確認した。

新潟市議会は、沿海地方を始め、中国延辺朝鮮族自治州、韓国江原道・忠清南道、秋田県の各議会とともに、第 1 回フォーラムから参加し、北東アジアの地方議会としての交流を続けており、近年では参加議会も増えてきた。今後もこの交流をさらに発展させることにより、新潟市の文化、観光、教育など様々な分野での市民や企業の交流強化に協力し、地域の活性化に努めていきたい。

最後に、今回第 9 回フォーラム参加の代表団の一員として、貴重な経験の機会を与えて頂いたことを感謝してご報告とさせていただきます。